2021 年 5 月 30 日　主日礼拝説教　　「聖霊の証印を受けた者として」　　エペソ 4：22～32

IGM 釧路・白鳥・深川教会　牧師　川嶋直行

ハレルヤ！主の御名を賛美します。

１，聖霊による心と生活の刷新

22～24 節　その教えとは、あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること、また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。

ここで「古い人」と「新しい人」が対比されています。英語ですと「古い人」とは、the old man 、「新しい人」は　the new man と訳されています。「古い人」とは、救い主イエス様を信じる以前の自分を指しており、「新しい人」とは、イエス様を信じた後の自分です。イエス様を信じたとき、私たちは、「古い人」から「新しい人」に変えられたのです。

皆さんは、この変化に、どのくらい、気づいておられますか。23 節において、「また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け」とあります。口語訳では「心の深みまで新たにされて」新共同訳では「心の底から新らたにされて」と訳されています。実は、この「新しくされる」経験は、心のまだ浅いところに留まっていて、心の深みに迄、届いていないことがあるのですね。

イエス様を信じて救われ、心が新らたにされて行くことは、キリスト者に与えられている素晴らしい恩寵です。有名なみ言葉ですが、Ⅱコリント 5 章 17 節にはこうあります。「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

イエス様を信じて救われますと、心が新しくされ続けて行きます。人間の肉体は、心臓のポンプによって、体中を、血液が流れています。二酸化炭素を多く含んだ、古い血液は、肺において、酸素を取り入れた、新しい血液に変えられます。それによって、私たちの体は、維持されているのですね。

同じように、私たちの心は、聖霊によって、日々、新しくされて行くのです。聖霊は、心の血液みたいです。31 節に書いてありますように、無慈悲とか、憤りとか、怒りとか、悪意とか、ののしりとか、毎日の生活の中で、ため込んでしまった、汚れたものが、聖霊によって、イエス様の十字架を通って、神の愛、キリストの赦し、親切、優しさ、新しい心に、変えられるのです。

私たちの体の中で、心臓が、毎日、休まず働いているように、聖霊は、私たちの心を、日々新たにするために、働いています。聖霊は、私たちの心の汚れを掃除し、きれいにしてくれます。26 節に「憤ったままで日が暮れるようであってはいけません。」とありますが、たとえ、理不尽なこの世において、失望したり、憤ることがあっても、キリスト者は、それらを主に委ねて、眠りに就きます。

聖霊は、私たちが、夜寝ている間に、心の修復作業を行って下さいます。そして、朝、目覚めるときには、リセットされた心、リニューアルされた心にしてくださるのです。たとえ、夕べには涙が宿っても、朝明けには、喜びがあり、希望があります。それが、聖霊による刷新の業です。自分で自分の心を新しくすることは難しいことですが、聖霊が、私たちの心を新らたにして下さるのですね。

私は、墨田川や小名木川沿いをウオーキングする事が多いのですが、その時、川を掃除する船を見掛けます。船の前に、大きな網が付いていて、船が進みながら、川に浮かんでいるゴミを拾って行くのです。川底のヘドロをショベルカーが掻きだす作業も行なわれています。川をきれいにするために、このような努力が、毎

日行われているから、川がきれいなのだなあと、感心致しました。

私たちの心も、日々、掃除をして、きれいにしてゆく必要があります。22 節に「あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること」とあります。「人を欺く情欲によって腐敗していく古い人」とは、少々、ショッキングな表現ですが、しかし、「古い人」をそのままにしておくと、そこから、腐敗が進んで行きます。

そのような「古い人」は、脱ぎ棄てなさいというのです。イエス様が下さる、新しい義の衣を、着て行くのです。私たちは、罪に汚れた「古い上着」を脱ぎ捨てて、イエス様が用意してくださる「白い衣」「義の衣」を身にまとって行くのです。24 節に「真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ること」とある通りです。

「新しい人」とは、神にかたどり造られた人です。真理に基づく義と聖さによって、キリストに似た者に変えられて行くのです。これは、聖霊による刷新の業です。Ⅱコリント 3:18 にこうあります。「私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

聖霊は、私たちを内側から、新しくして下さいます。心と生活が刷新されて行くのです。自分中心の心から、イエス様を愛する心へと、変えられて行きます。これは、聖霊の働きによる、心のリニューアルです。私たちの外なる人は、年齢と共に衰えて行きますが、内なる人は、聖霊によって、日々、新しくされて行きます。

２， 悪魔に機会を与えてはなりません

25～29 節　ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部分なのです。 怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってはいけません。 悪魔に機会を与えないようにしなさい。 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい。悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。

27 節に「悪魔に機会を与えないようにしなさい。」とあります。私たちに働きかけてくるのは、聖霊だけではありません。厄介なことに、悪魔も、また必死に働いているのです。Ⅰペテロ 5 章 8 節に「身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。」とある通りです。

創世記 3 章で、ずる賢い蛇が、エバとアダムを騙したのですね。この蛇は、新約聖書では「古い蛇」と呼ばれ、悪魔とかサタンを指しています。彼は、非常に狡猾で、騙すのが上手なのです。悪魔の目的は、人を騙し、神に背かせ、最後は、滅びへと引っぱり込むことです。自分が天から落とされたので、一人でも多く、滅びに道ずれにしようと躍起になっているのです。

悪魔は、私たちが、信仰に堅く立ち、神さまの方に、しっかりと、顔を向けているときは、逃げて行きます。悪魔は、卑怯者なので、志の堅固な人には近づきません。彼は、私たちが油断している隙をついて来ます。「悪魔に機会を与えないようにしなさい。」と言われる、この「機会」とは、どういう機会でしょうか。

26 節に「怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってはいけません。」とあります。人が、怒り続けている時、悪魔はそのチャンスを狙って来ます。悪魔は、人の怒りをもっと大きくして、破壊的な結果を招くように、仕向けて来るのです。

28 節に「盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい。」とあります。ニュースで、巨額着服事件を聞くことがあります。最初は、「少しだけ。1 回だけ。」と言って、悪魔に機会を与えた結果、本丸まで、攻め込まれてしまいます。ですから、悪魔に付け入る機会を与えないことが大事だと思います。

悪魔に付け入る隙を与えないためには、防御と攻めの両方が必要です。26 節では、怒ることを止めることが防御となり、許すことによって、私たちは、勝利を得ることができます。怒りを抑えるだけでなく、主イエス様が赦してくださったように、他の人のした誤ちを赦すのです。それによって、私たちは、怒りという暴君に、勝利することが出来ます。

28 節にあるように「盗む」ことを止めるという防御とともに、困っている人に分け与えるという、善い行いによって、勝利を得ることが出来ます。お金に執着し過ぎると、サタンは、そこに付け込んで来ます。その誘惑から守られるためには、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働くことです。そして、その対価によって、他の人を助けることです。

29 節、悪い言葉を口から出さないという防御とともに、積極的に、良い言葉を出すことによって、勝利することが出来ます。陰口とか、悪口とか、主に聞かれて恥ずかしい言葉を私たちの口から出さないようにするのです。イエス様が仰ったように、人の口から入るものが、人を汚すのではなく、人の口から出るものが、人を汚すのです。

私たちの口から出る言葉によって、自分自身が、きよめられ、逆に、私たちの口から出る悪い言葉によって、私たちの心も人生も穢れて行くことになります。悪魔は、私たちが何気なく言った、悪い言葉に、尾ひれ背びれを付け加えて拡大し、他の人を傷つけ、ブーメランのように、自分自身にも、ダメ―ジとして返って来るのです。

逆に、聖霊が話させてくれる言葉は、人に恵みを与え、人の徳を高める効果があります。「必要なときに」とありますが、言葉数が多ければ良いという訳ではありません。むしろ、少ない言葉でも、親切で塩味の効いた言葉であるなら、人の成長に役立つ言葉となるのだと思います。

私たちは、悪魔に機会を与えないよう、注意して行きたいと思います。その為には、捨てるべきものは捨てることです。22 節には「古い人を、脱ぎ捨て」とあり、25 節には「偽りを捨て」31 節には「一切の悪意とともに、捨て去りなさい。」と書いてあります。心のゴミは、早めに捨てましょう。そうでないと、そこから、腐敗が始まります。私たちは、聖霊によって、心の深みまで、新しくされて行くのです。

３，聖霊を悲しませてはならない

30～32 節　神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

信仰者の心に、聖霊によって証印が押されています。同じエペソ書 1 章 13 節に「このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊

によって証印を押されました。」とあります。「証印」とは、分かり易く言えば、判子のことですね。英語だとシールだとか、スタンプとか、訳されていますが、日本人には、「判子が押された」というのが、分かり易いかと思います。

つまり、イエス様を信じて救われた人の魂に、父なる神様が、「あなたの罪は赦された。」「あなたは、わたしの愛する子」という判子を押してくださったということです。それが、「聖霊による証印」です。現代は、脱判子が進みつつあるようですが、重要な契約をする時は、最後に、印鑑登録してある実印を押します。「これは確かです。守ります。」という印です。

人が押した判子も、契約の証拠となるものなら、なおのこと、神が、押した「聖霊の証印」は、そう簡単に取り消されることはありません。神の印が、聖霊によって、私たちの魂に刻印されたのです。たとえ、私たちの側で契約不履行となったときでも、キリストの十字架による救いの約束は、取り消されることはありません。この証印は、私達が御国を受け継ぐことの保証です。

ただし、私たちが、この約束を守らないと、この心に押された証印が疼きます。痛みます。聖霊が悲しまれます。たとえ、私たちが、悪魔の誘惑に負けて罪を犯したとしても、神様の御心を知りながら、故意に背いたとしても、神様は、直ぐに、契約を、取り消されることはありません。でも、悲しまれるのです。

聖霊は、三位一体の神です。御人格を持っておられる神様です。私たちが、喜ぶとき、共に喜んでくださいます。私たちが、悲しむとき、共に悲しみ、慰めて下さいます。私たちが、試練の中で、気落ちする時、私たちの傍らに来てくださって、励まして下さいます。しかし、私たちが、主の御心を知りながら、背くとき、聖霊は、悲しまれるのです。

聖書は、「神の聖霊を悲しませてはいけません。」と言います。子が悪いことをすると、親は悲しみます。もちろん、怒って、叱ることもありますが、それは愛するが故ですよね。決して憎くて叱るのではありません。私たちは、愛する人を悲しませたくはありません。愛する人が、悲しむのを見ることは辛いことです。

子どもの頃、友だちのクワガタを黙って家に持って来てしまった時、母の涙を見て、悪いことをしてしまったと、後悔しました。聖霊は、私たちを愛するが故に、私たちの罪や、不法を、悲しまれるのです。私達の魂に、聖霊による証印が押されていることを、感謝するとともに、聖霊を悲しませないようにしたいと思います。

「無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。」イエス様が、私たちを赦してくださったように、イエス様が、私たちを愛してくださったように、私たちも互いに、赦し合い、愛し合って行きたいと思います。

私たちが、御心に沿って歩むことが出来るように、神は、私たちの心に、聖霊の証印を押してくださいました。これは、私たちが、御国を受け継ぐ保証です。私たちは、聖霊を悲しませることがないように、逆に、聖霊による平安と認証を頂きながら、信仰者として歩んで参りたいと思います。今週の歩みに、主の守りとご同行をお祈りいたします。

30～32 節　神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。 無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。